

西播

新・転地

私の暮らしかた

1993（平成5）年11月、米國シアトル。米大統領クリントンや首相細川護国公使ら環太平洋の主要国・地域の首脳が和やかに記念写真に納まる姿を、外務省の一員として近くのホテルに詰められていた33歳の松井宏之は、モニター越しに見守っていた。

87年、野村証券に入社。東南アジア経済への精通ぶりを買われて92年、外務省に出向。アジア太平洋経済協力会議（APEC）の日本代表団事務局で、初の首脳会議開催に向けた国内各省や各国政府との調整を続けた。迎えたこの日は、アジア・太平洋時代の到来を告げる歴史的な一日となった。

大きな時代の転換期に立ち合ったという高揚感。一方で、胸の内に封じていた別の志があった。6年後、社を去った。

同じ93年、川崎市にある電機大手東芝の半導体技術センター。深夜のオフィスで、27歳の岡田真希子は海外からの依頼に基づいたアラウ管テレビ向けの企画書作成に追われていた。

マイコン応用技術4課初の女性社員。技術を担う女性社員は当時、電機大手の同社でもまだ少なかった。89年の入社後1年間、男性上司は腫れ物に触るよう、本格的な仕事を与えようとしなかった。

働き場所を得るため、懸命に働いた。残業は月80、100時間。日付が変わる前に帰宅することはほとんどなかった。それが当たり前だと思っていた。

だが、その後、結婚をへて、充実感とは何かと真剣に考えた時、東京に未練はなくなった。

時はバブル時代終盤。東京・新宿区の製版会社の片隅で、30歳を過ぎたばかりの高橋秀彰は目を覚ました。次々と舞い込む仕事の納期を間に合わせるため、寝袋での職場泊が



野村証券から外務省に出向していた当時の松井宏之さん

技術者として東芝に勤務していた頃の岡田真希子さん

平成それぞれの歩み



広告代理店に勤めていた頃の山口貴士さん



肉用子牛の生産を試みていた頃の松田静さん



製版会社に勤めていた頃の高橋秀彰さん

帰宅は週に2日程度。激務に心身がむしばまれていった。バブルが崩壊すると業界は逆風にさらされ、会社は事業縮小を決めた。転職を打診されたが、続ける余力はなかった。会社勤めから解放されて安とする一方、苦しい人生をのろった。そして、決心した。「人生の宿題を果たすべき時が来た」と。

2008（平成20）年秋、米國証券大手の経営破綻に端を発したリーマン・ショック。赤穂市北東部の中山間地域で、夫と稲作農業を営む、50歳の松田静の元にも、世界規模の金融危機の影響はじわりと現れた。23歳で農家に嫁いだ。生活をするために、肉用子牛の生産を試みたが、米肉産牛肉の輸入自由化などで収入は伸びなかった。花壇苗のハウス栽培に乗り出し、順調に出荷を続けていたが、経済危機とともに、売れなくなった。

そんな中、稲作家族農業の原点に返る一握りの古代米と出会った。

11（平成23）年3月、東京・下北沢。東日本大震災発生後の約1週間後、自宅待機を命じられていた26歳の広告マン、山口貴士はスーツに着替えて港区赤坂にある本社を目指した。

テレビは連日、福島での放射性物質拡散を伝える。都心の入り込みは少ない。東京で働くことへのこだわりが揺らいだが、「俺たちが働いて経済回さなきゃいけないんだよ」と言う先輩に、返す言葉が出なかった。

「やっぱりしっかり働かん」と思い直し、終電を気にしながらキーボードをたたいた。だが翌年、転職を機に会社を辞めた。（本文敬称略）

平成が終わる新たな時代が幕を開けようとしている。何かにとらわれていた人生から自身を解放し、西播磨の地でそれぞれの暮らしかたを実践する人。元日からの連載で、その転機をたどる。

たどり着いた場所は

きょうの天気

	午前	午後	夜	気温
赤穂	☀️	☀️	★	9/0
山崎	☀️	☀️	★	9/0

○数字は降水確率
（日本気象協会関西支社）

小中高生対象
赤穂 豊岡 170キロ
徒歩縦断に挑戦
来春、参加者を募集
瀬戸内海側の赤穂市から日本海側の豊岡市まで、兵庫県内の約170キロを歩いて縦断する「チャレンジウォーク（神戸新聞社後援）」が3月28日〜4月4日（7泊8日）にある。NPO法人「生涯学習サポート兵庫」（姫路市）が小中高生を対象に、2月12日まで参加者を募る。

人と関わる力、決断する力など、生きる力を身に付ける。3月28日午前9時、赤穂海浜公園を出発。上郡、

佐用、宍粟、養父、朝来各市町を経て、4月4日午後1時に豊岡市の城崎マインワールドに到着する予定。荷物はやカーに積み込み、順路は参加者で相談しながら、夜は公民館などに泊まり、帰りはバスで姫路市内まで戻る。

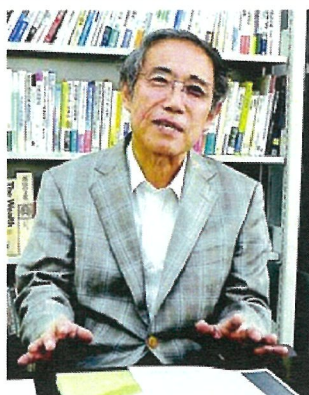
おおむね15歳までの定員50人。徒歩縦断に挑戦する理由を200〜400字の作文で提出。面接もある。参加費6万4800円（費用や宿泊費など別途2万円程度必要）。希望者には13日に加古川市立勤労会館で、26日に姫路市市民会館で説明会を開く。同人会

たつの市の生活に役立つ「暮らしの便覧」をまとめた「暮らしの便覧」が今年11月に発行された。住民向けガイドとしては13年ぶりに内容を一新。3万5千部を制作し、約3万部を全市配布。転入者には窓口で手渡す。冊子はA4判、全カラー印刷の144頁。市役所への相談や問い合わせの窓口、各種手続きなど行政サービスを中心に15項目で構成される。子育て、福祉、健康に関するサービスや制度を手厚く紹介。公共施設や災害時の指定避難所、年間イベントなどを一覧で見や

13年ぶり「便利帳」刷新

たつの市の生活に役立つ「暮らしの便覧」をまとめた「暮らしの便覧」が今年11月に発行された。住民向けガイドとしては13年ぶりに内容を一新。3万5千部を制作し、約3万部を全市配布。転入者には窓口で手渡す。冊子はA4判、全カラー印刷の144頁。市役所への相談や問い合わせの窓口、各種手続きなど行政サービスを中心に15項目で構成される。子育て、福祉、健康に関するサービスや制度を手厚く紹介。公共施設や災害時の指定避難所、年間イベントなどを一覧で見や

たつの市の生活に役立つ「暮らしの便覧」をまとめた「暮らしの便覧」が今年11月に発行された。住民向けガイドとしては13年ぶりに内容を一新。3万5千部を制作し、約3万部を全市配布。転入者には窓口で手渡す。冊子はA4判、全カラー印刷の144頁。市役所への相談や問い合わせの窓口、各種手続きなど行政サービスを中心に15項目で構成される。子育て、福祉、健康に関するサービスや制度を手厚く紹介。公共施設や災害時の指定避難所、年間イベントなどを一覧で見や



2年間の授業料で3年間在籍できる長期履修制度や、社会福祉士や保

社会福祉学研究科の充実を図る関西福祉大の藤岡純一教授（赤穂市新田）

関西福祉大大学院開設10年目

3研究科を開設

関西福祉大学（赤穂市新田）が大学院を開設して10年目を迎えた。社会福祉学研究科科長で開設時から関わる藤岡純一教授（69）は「福祉は誰もが関係する。学んだことを実践で生かせる大学院に」と話す。

同大学は1997年4月に開学。2009年4月に同大学院社会福祉学研究科を開いた。12年4月には看護学、18年4月には教育学の研究科を置いた。

実践で役立つ福祉

西播

- たつの支局
TEL...0791-62-0007
FAX...0791-62-3164
- 相生支局
TEL...0791-22-0345
FAX...0791-23-6414
- 赤穂支局
TEL...0791-42-2535
FAX...0791-42-9450
- 宍粟支局
TEL...0790-62-0775
FAX...0790-62-9800
- 佐用支局
TEL...0790-82-2459
FAX...0790-82-2685

火事や事故の速報、写真、映像提供、身近な話題、生活情報を上記へご連絡ください

電子版「神戸新聞NEXT(ネクスト)」の紙面ビューワーでは全地域版がご覧いただけます
詳しくはWebで / 神戸新聞

きょうの天気

	午前	午後	夜	気温
赤穂	10	10	10	10/3
山崎	10	10	10	10/3

○数字は降水確率
(日本気象協会関西支社)

米国で今夏開催される「世界ジュニアゴルフ選手権」の出場権を獲得した。課題に挙げたのはメンタル面。「毎日電話をして、に助けてもらった。心配し掛けないようにしたい」

米国で昨年12月に開かれた「IMGA世界ジュニアゴルフ選手権フロリダチャレンジ」に、たつの市立御津中学校2年の松本静さん(14)が初出場し、世界各国の強豪約30人が出場した女子14歳以下の部で優勝した。3日間の大会最終日に一時逆転されたが、1打差で勝利をもぎ取った。世界一の栄冠を手に「将来は世界で活躍できるトッププロに」と夢を描く。

富里美香選手らを育てた米国のアスリート養成校「IMGAアカデミー」(IMGA)が主催。昨夏、小野市であった日本予選を制し、初の本戦出場を決めた。父親の明さん(40)は会社勤めの傍ら、30歳から競技

ジュニアゴルフ選手権フロリダチャレンジ 米国の大舞台で栄冠

14歳以下の部優勝 松本 静さん(御津中2)



世界ジュニアゴルフ選手権フロリダチャレンジで優勝した松本静さん(本人提供)

「将来はトッププロ」夢描く

ゴルフを始めた。静さんは練習に付いていくうちに興味を持ち、10歳でクラブを握った。明さんの指導でめきめきと上達。毎日500球を打ち込み、土曜日はラウンド練習を続ける。大会では2日目まで2位をつかんだ。付き、粘りのゴルフで勝機をつかんだ。

日本勢では、男子14歳以下に4打差とトップを独走したのが、最終日に一時逆転を下の部に出た豊岡南中2年の黒田裕稀さん(14)とアベリカバリーの技術で食らい

民具で触れる昔の正月

赤穂・民俗資料館 羽子板など100点



戦前の羽子板 赤穂市立

新・転・地

私の暮らしかた

5

ヤギがのんきに鳴き、新米ののぼりがはためく。庭先にヤマザクラの古木がたたずむ古民家の白壁にうがれた大きな窓の中で、地元農家らがコーヒを片手に談笑している。

県内最少人口の神戸町の北部、山あいに位置する長谷地区にある木造平屋の coworkingスペース(共有オフィス「kajano(カジャノ)」。入れ替わるように、今度は女性経営者がやってきて、イベントに向けた打ち合わせが始まった。

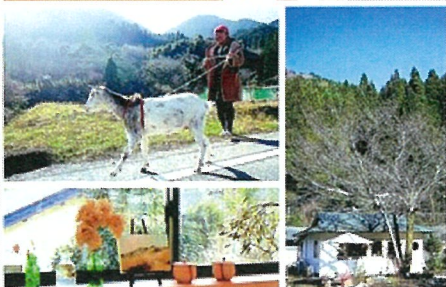
ここには楽しい種がいっぱいある。と、経営する山口貴士(34)。ベンチャー企業が研修を行い、クリエイターが個展やトークセッションを開く。異業種、住民の交流拠点として過疎地に生きわを生む。

山口は広告代理業、農家と3足のわらじを履きながら、村行事や消防団活動に積極的に加わり、集落に溶け込む。だが、「カインシャ」以外の生き方があると知ったのは、そう遠い昔ではない。

姫路市出身。父も祖父も公務員、母は商家の出身だった。高校時代はバンド活動に熱中し、東京を夢見た。偏差値の高い大学への進学を条件に上京が許され、猛烈勉強の末、早稲田大に合格した。

音楽は諦め、雑誌ライターのアパートにはまった。就職戦線は売り手市場。大学院をへて倍率1.15倍の難関を突破し、2009年、準大手広告代理店に入社した。

coworkingスペース「カジャノ」を経営し、地域にも溶け込む山口貴士さん(神戸市長谷) (撮影・小林良多)



長身でブランドのスーツを着こなす、会社のエース集団をまとめるエリート。の意外な言葉に、気が楽になった。翌12年、大阪に転勤。中高時代の友人と再会し、週末にライブイベントなどを開く中で、地元とのつながりを見つけた。

「僕にとっての豊かさって何だろう」と考えた時、カインシャにしがみついた。由はなかった。

13年4月に退社。思い切った半面、肩書がない不安がつきまとう自分を「今の方が自然体がいい」と支えてくれた旧友の奈央(34)と結婚した。新天地を探る中で、奈央の祖母宅がある神戸町長谷に移住した。

姫路市のカフェ兼ギャラリーの一角を間借りして事務所を構え、企業のブランディングを手掛ける「山口貴士事務所」を設立。重工業、美容室チェーン、工務店、農業法人と顧客が広がり、手応えを得た。

築80年以上の空き家を改修したカジャノでは18年、新しい試み始めた。「世界には人の数だけ、暮らしと仕事の形がある」と、自身の実感が詰まったテーマで靴職人や女性経営者を講師に招き、多様な「ワークライフバランス」を探る。

移住後に俳句を始めた。田植えの光景の美しさに「早乙女の列ゆきて波の立つ」。この地で脈々と続く、人々の営みに連なる喜びを感じながら。

(井上太郎)

■本文敬称略

■おわり

カインシャ以外の生き方

ブ職はかなわず、営業に。敏腕の先輩や優秀な同期にもまれ、この土俵で競争を勝ち進む自分がうまき思い描けない。それでも振り落とされたくない。一心で踏ん張った。

東京で、広告代理店で働いています。そう言えば、人は一目置いてくれる気がしたし、家族も認めてくれた。給料も、同世代の中では恵まれていた。そ